一の宮巡拝

一の宮巡拝会　発行人　関口 行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
電話：072-791-5158　FAX：072-791-5159
E-mail：junpai@sekinomiya.com

今年は、一の宮巡拝会結成10周年
――百万人巡拝運動の今――

今年は一の宮巡拝会結成10周年を迎えます。会の設立に多大な尽力をされた初代代表世話人入江孝一郎先生は「巡拝をすることによって人は清められる」ということを常々語っていました。そして「今こそ日本古来から敬われ全国に鎮座されている一の宮神社を巡拝することにより、元気を取り戻したい。百万人の人たちが巡拝すれば、その経済効果は絶大なものになる」と。

一の宮巡拝会は平成11年4月1日に設立しましたが、当時の日本はバブルが崩壊し日本全国が閉塞感に満ちていた時代でありました。そんな日本を元気にするためには、古代から各地にある一の宮神社を巡拝すれば、本来の日本人としてのあり方や方向性が明らかになり、日本人が自信を取り戻すことになるだろう。ということから、一の宮神社を巡拝することを目的に一の宮巡拝会は結成されたのであります。

大洗磯前神社・神磯の日の出

あれから10年、昨年のアメリカの金融危機に端を発した世界同時不況の嵐は年が明けても混乱の尾を引いています。考えてみれば日本は10年前とあまり変わらず、むしろ10年前より悪くなっている状況にあるのではないでしょうか。10周年を迎える今年、改めて巡拝の意義を問いさらなる発展を期したいと願っています。

10周年の記念行事は平成21年6月20日(土)～21日(日)尾張国一の宮真清田神社にて『第３回一の宮シンポジウム』として全国交流会と併せて開催致します。皆様のご参加とご協力をよろしくお願いいたします。

一の宮巡拝会代表世話人　関口行弘

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

一の宮巡拝会本部事務局
〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
電話：072-791-5158　ファックス：072-791-5159
E-mail：junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝会東京事務局
〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内
電話：03-5823-3901　ファックス：03-3865-2135
E-mail：shio0369@crocus.ocn.ne.jp

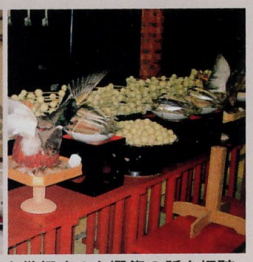
第三回 関東ブロック交流会 報告（巡拝地：香取神宮・鹿島神宮・息栖神社）

実施日：平成20年11月22日（土）日帰りバス巡拝

出雲国に天降って大国主神に国譲りを承諾させた武神・武徳の神を祀る、関東屈指の古社である常陸国一の宮鹿島神宮と下総国一の宮香取神宮を正式参拝、東国三社と伝えられる息栖神社を巡拝いたしました。

平成二十一年の国家安寧とご皇室の弥栄、並びに世界恒久平和を祈念致しました。又今上天皇陛下御即位二十年の佳節でもあり祝い申し上げる所でございます。先ず香取神宮を正式参拝しお茶をいただきました。神酒を供饌しない唯一の祭典で「おだんご」をたくさん供える大響祭の話を聞きました。（右列最上段右写真）昼食後、鹿島神宮で正式参拝し御垣内に入庭し御本殿と御神木を身近に拝し感動しました。次に鹿島則良宮司様の講演を拝聴した。右足をけがして松葉杖をついても巡拝会のために講演いただき感謝申し上げます。息栖神社参拝後、帰路バスにて木曽・池田様の木やりでしめくくりました。（塩）

足の怪我にも拘らず講演頂いた鹿島宮司


香取神宮では「おだんご」を供饌する大饗祭の話を拝聴

鹿島神宮・御垣内から仰ぐ千木とご神木

東国三社・息栖神社の忍潮井から拝す今回のサプライズ夕景

香取神宮境内ご神木と拝殿

鹿島神宮・御神殿

香取神宮・御神殿

鹿島神宮・奥宮参拝

香取神宮・奥宮

巡拝の声

「おーい、元気か!?」 ダスティン・キッド著

彼は私の後を追うように興止日女神社から千栗八幡宮へ参拝し、そして宮司不在から御朱印をいただく為に、再び同じように訪れた興止日女神社へ出向く。たまたま彼が何度も架けた社務所への電話連絡を二度耳にした私は彼の動きを知っていたので、その偶然の一致した巡拝過程が出会いを考え、夜の7時過ぎまで待つことにした。しかし、まさか外国人とは夢にも思わなかった。（本著114頁の私の視点での出合い）彼を故入江代表世話人に紹介すると、彼の人柄も幸いして、とても喜ばれて我が孫の様に周囲に話され、彼を様々な側面から力強く応援していた。完拝したことも本を出版したことも凄いが、彼は単に日本語が理解できるだけではない。出会って驚いたのは、「漢字や送り仮名」は勿論当たり前の様に丁寧に書けるが、一般的な日本人が解らない漢字も読み書きするし、神道に対する考えや知識は常人を超えた旺盛さがある。恐らく、直接話され自作の原稿を目にした出版元新聞編集者の方も驚いたであろう。一年間の新聞コラムの文章をまとめたものなので、2頁の短編で少しの合間にも一話完結で読み進める。この本には、家族への愛や彼の周りの知人と友人に対する謝辞も多く記述されている。彼はお世話になった方々に、添え書きをして本を贈呈することも忘れていない。完拝した彼の心の中には、神の御心が宿っているからと思っている。いずれは英文著書を書き、神道を欧米に紹介する夢も持っている。ダスティン・キッドさんの最初の著書として、皆様にも一読をお勧めします。

一の宮巡拝会　中部ブロック世話人　大谷 武司

推薦の言葉（著書帯より）

「神社巡りのあのキッド先生か」と懐旧の念をこめて思い出される方も多いと思う。彼は現在三十一歳。わが国の神道に魅せられて、留学中から全国の神社を巡りだした。そして百六の一の宮を完拝したという大記録を持つ。各地を自身の足で巡っているだけに、日本国内の実状にはめっぽう詳しい。いわば第二のラフカディオ・ハーンと形容しても言い過ぎではない。外国人の彼が、わが国をどう捉え、感じているのか。彼の随想にはそれらが溢れている。

（酒井董美／元島根大学教授。現在、出雲かんべの里館長）

定価 1,890円（本体価格1,800円）
発行所 島根日日新聞社
〒693-0064 島根県出雲市里方町545
電話 0853-23-6760

小説「全國一の宮」調元祖

橘　三　喜（第三十六回）

郡　順史・作　　梶　鮎太・画

「おお、言い忘れたことがあった。吾れながら何としたことであろう」

三喜は、紅梅から視線を放たず、うしろの平之進へ呟くように問いかけた。

「おぬしはこれまで、歌、三十一文字、和歌を詠んだことがあるかな。詠もうとしたことでもよい」

そして振りかえって顔を見る。

「いいえ、ございません。先人の真似をして詠もうとしたことは二度、三度ございましたが、歌になりませんので、それからは只の一度も――」

平之進は恥かしかったのか、語尾を細くしながら答え、あまつさえ小さく首をふった。

「誰しも最初からすぐれたものを詠めるものではない。和歌は、國学の基本、心そのものと言われている。従って國学を学ばんとする者は、まず和歌の神髄を学びとらねばならぬ。巧拙にこだわらず、己の心を己の言葉で歌うところから努力、精進なさい」

「はい。努力、精進いたします」

平之進はどこまでも素直だった。

後年、三喜のことを、橘流の神道者としてよりも、歌人として認識している人が多くいた。現代の人物事典によっては歌人と肩書きしているものもあるくらいだ。三喜は七十年の生涯に約三千首の歌を詠んだと言われ、この後の自書「諸國一の宮巡拝記」においても、詣でる神社に必ず一首二首詠じ献じているのを見ても、歌人とよんでもあながち大きな間違い、と言えないと思う。

ゆえにこそ、平之進にも熱心にすすめ、終生にわたって指導したのであろう。

「わしはな、和歌を詠みはじめの頃、こんなことをした覚えがある……」

三喜は、それこそ細い声で、呟きおとすような調子で喋り続けた。

「舞をする時、練習でも本番時でも、一所懸命に歌人さんの声と歌にあわせ舞った。そのうち、声に出さず、歌人さんの歌を同じように歌いながら舞った。が、更にそれも物足りなく思い、今度は自分で同じ調子、同じ字句を作り、それを口の中で歌いながら舞ったものだった……」

「うまくゆきましたか――」

平之進は驚きながら訊いた。

「ゆかなかった。歌人さんから、舞いがおろそかになっているとお叱りをうけた。だが、以来わしは、舞いながら歌いはしなかったが、歌づくりの面白さを覚え、今日まで何かというと諸事を歌に託するようになった」

平之進に返事はなかった。が、感銘を受けたのであろう、首ふり人形の如く、激しく二度も三度も首を上下にふっていた。

「もう一つ、おぬしに訊いてみたいことがある。おぬしは、宮司殿の記憶に残っている書物は何か、と問われ、今昔物語集ですと答えた。宮司殿は少々意表をつかれた面持ちをなされたが、反問はなされなかった。わしも同様意外と思った。今昔物語集が悪しき書ということではなく、おぬしが彼の書のいずこに魅かれたのか、参考のためきかせて貰いたい」

はい。と答えはしたが、平之進からあとの言葉が続かなかった。多分、彼の書は、妖怪変化の話に満ちているゆえ、それに興味があったゆえ、と答え、幼稚な男よと嗤われそうに思ったからであろう。

「はっはっはっ。おおよその事は判っている。答えたくなくば答えずともよい。では行こうとするか……」

三喜は先にたって歩をすすめた。

すぐに平之進が続く。

國家老滝川の屋敷はすぐ目の前だ。

（つづく）

一の宮巡拝会

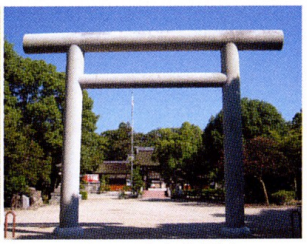
平成二十一年度 近畿ブロック 第四回交流会のお知らせ

平素は一の宮巡拝会の各行事にご参加並びにご協力を賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

さて、本年も来る三月二十日(祝日・金)に一の宮巡拝会近畿ブロック第四回交流会を左記の通り開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

今回は、国生み神話の淡路島にご鎮座(イザナギ・イザナミ両大神)する淡路國一の宮「伊弉諾神宮」並びに、四国阿波國一の宮「大麻比古神社」を巡拝(正式参拝)するコースです。巡拝会会員の皆様、またお宮さんや歴史などに関心がある方々の情報交換や親睦を深め合う場となれば幸甚です。何卒、皆様お誘いあわせの上ご参加賜りますようお願い申し上げます。

(担当:一の宮巡拝会　近畿ブロック　高寺 壽)


淡路国一の宮・伊弉諾神宮

阿波国一の宮・大麻比古神社

日時　平成二十一年三月二十日(祝日・金)日帰りバス巡拝

集合　JR新大阪駅一階南側観光バス駐車場　午前九時十五分(午前九時三十分出発)

解散　JR新大阪駅 午後七時頃

会費　一万円(玉串料、交通費・昼食・飲み物代含む)

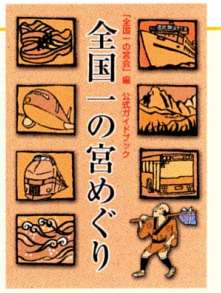
行程　新大阪駅→観光バス→伊弉諾神宮(正式参拝)→ルネッサンスリーゾートナルト(昼食)→大麻比古神社(正式参拝)→ドイツ館(観光)→新大阪駅

申し込み　参加希望者は**二月末までに**ファックス又は電話にて申し込みください。
FAX　〇七二五―二二―四〇四〇
／電話　〇八〇―三一〇八―四八八一(高寺)

「全国一の宮会」編

公式ガイドブック　全国一の宮めぐり

全国一の宮神社の神職で構成されている『全国一の宮会』飯田清春会長(尾張国一の宮真清田神社宮司)、事務局(大和国一の宮・大神神社内)では平成二十年の十二月に待望の公式ガイドブックが発刊されました。ただし一の宮神社のみでの頒布で一般の書店では購入することが出来ません。諸国一の宮神社の社頭でお求めください。神社にない場合は左記の何れかへお問合せください。



頒価　一、〇〇〇円

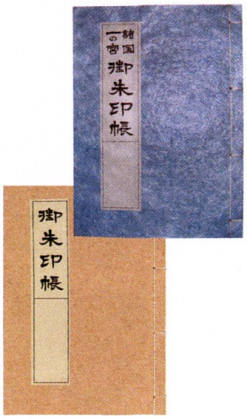
①**全国一の宮会事務局**
〒六三三―八五三奈良県桜井市三輪一四二二大神神社内
電　話　〇七四四―四二―六六三三
FAX　〇七四四―四二―〇三八一

②**一の宮巡拝会東京事務局**
〒二一―〇〇五五東京都台東区三筋一―十二―十二(株)アドワーク内
電　話　〇三―五八二三―三九〇一
FAX　〇三―三八六五―二三三五

新・御朱印帳完成

好評の出雲千年和紙(斐伊川和紙)二万五千円のご朱印帳につづき、第三版として四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙を使用して新規に普及版を製作いたしました。出雲和紙同様、軽くて携帯に便利(二五〇g)、墨書きも吸い込みが良く速乾性にも優れ好評です。

＊一の宮神社以外の御神印をいただくために、本文全て白紙版、和紙(B5判・軽量)の御朱印帳。ご購入希望者は東京事務局まで



上(青)／四国和紙・楮笹ヶ峰(高知県)の和紙の普及版
定価7,000円(送料別)

下(白茶)／B5判和紙本文全て白紙版定価6,000円(送料別)

◎全国一の宮巡拝のすすめ・改訂版(三百円)
◎全国一の宮参拝参考資料・初版(百五十円)
―― ご購入希望者は東京事務局まで ――
好評頒布中

平成二十一年度　会費納入のお願い

巡拝会の年度は、ご入会された月日ではありません。**毎年一月が更新月**となっています。本年度の更新が未だの方は同封の振込用紙にて更新してくださいますようお願い致します。尚ピンク色の会員証をすでにお持ちの方はお振込の必要はありません。

諸国一の宮めぐり

朝日旅行会・ツアー開催のお知らせ

三月二十五日(水)　丹波國・出雲大神宮
山城國・上賀茂神社、下賀茂神社
近江國・建部神社

四月二十二日(水)　丹後國・籠神社
但馬國・出石神社、粟鹿神社

〈同行案内人〉生谷　陽之助氏／一の宮巡拝会顧問
◎詳細は左記にお問い合わせください。

お問い合わせ
☎〇六―六三四五―六一三(大阪)
受付時間　九時三十分～十七時三十分
土・日・祝日は休ませて頂きます。

旅行企画・実施　株式会社 朝日旅行
〒五三〇―〇〇〇四
大阪府大阪市北区堂島浜二―二―二十九古河大阪ビル本館5F

一の宮巡拝会本部事務局　創房関宮(有)内
〒六六六―〇一一　兵庫県川西市大和東二―十三―十
電　話　〇七二―七九一―五一五八
FAX　〇七二―七九一―五一五九
E-mail : junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内
〒二一―〇〇五五　東京都台東区三筋一―十二―十二
電　話　〇三―五八二三―三九〇一
FAX　〇三―三八六五―二三三五
E-mail : shio0369@crocus.ocn.ne.jp

●入会金及び会費について
一般維持会員　年会費　三〇〇〇円
賛助会員　一口　三〇〇〇円(何口でも可)
寄付金　お志し　※常時受け賜ります。薄謝謹呈

●会費等お振込み先
郵便振替(大阪)〇〇九九〇―五―八一五一五